

ZERO・HIGASHIDA

ゼロ・ヒガシダ 彫刻展

ストルゲ 「家族愛」 H 225cm x W 247cm x D 120cm

2016 **9.30**(金)~**11.21**(月)

・会場／安芸高田市立八千代の丘美術館<TOKUBETU 企画展示室>

 安芸高田市立 八千代の丘美術館

〒731-0302 安芸高田市八千代町勝田 494-7 TEL (0826) 52-3050

- 開館時間／10:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休 館 日／毎週火曜日 (火曜日が祝日の場合は開館、翌日休館日)、12月28日~1月4日
- 入 館 料／一般300円・65歳以上200円・小中学生200円
障害者手帳をお持ちの方(介助者1名を含む) 無料 全15棟をご覧になれます
- 主 催／安芸高田市教育委員会・八千代の丘美術館

ゼロ・ヒガシダ

略年譜

1958
広島に生まれる
1984
日本大学芸術学部美術科卒業
1986
東京藝術大学大学院卒業、渡米
1988
New York Studio School 入学

受賞歴

2008 第10回KAJIMA彫刻コンクール 金賞受賞
2011 第75.6回新制作展 新作家賞
2013 第77回 新制作展 協会賞

新制作協会 会員



本当のリアリティー

私たちにとってリアリティーとは何だろう。リアリティーは現実とか、現実感とか訳してもよいが、私は「切実さ」と言い換えてみたい。

目まぐるしく流動する現代社会において、私たちはついつい目の前に生起するもの、目の前を通過するものだけに目を奪われがちだ。

美術の世界も例外ではなく、日常的に接するアニメーションや携帯のゲームなどに登場する表象イメージと運動したかのような作品が次々と生まれている。この現象は、マス・イメージを作品に取り入れたポップ・アートの系譜に属するものとも考えられるが、アンディー・ウォーホルが登場した時のように、そのイメージをそのまま使用するような素朴さはない。それはある種の洗練さとともに加工が施され、存在感の希薄さを感じさせる。

私たちは流されてはいないだろうか。私たちは現実を見ているのだろうか。私たちはそのような美術作品にリアリティー(切実さ)を感じているのだろうか。

ゼロ・ヒガシダ氏の作品を見ていると、現代人の日常にも、現代の美術にも欠けてしまった本当のリアリティーを感じる。「本当の」とは、表層ではなく、より人間の魂の深奥部に届き、そこで響きあう切実さを持っている、という意味である。

作品の本質的なものと直接に接してみて、そこにあるものが確かに人間が本来持っていた何かを喚起するものであれば、それは必ずしも具体的な表象や概念を伴っていかなくてもかまわない。そのなんとも言葉で言い表すことができない未分化の感情こそ、私の言うところの本当のリアリティーであり、現代の私たちが失ってしまった、そして再び獲得すべき最も大切なものの一つなのではないだろうか。

ゼロ・ヒガシダ氏の作品は、そのことを私たちに思い起こさせてくれる。

呉市立美術館館長 松田 弘

True Reality 個展

What is reality? I often think of something that is "undisputed fact" or has "a sense of reality". Our rapidly changing modern society is constantly trying to grab attention and we often focus on art forms are created in a modern daily life such as animation or smartphone. 1995 mass images, however, have a sense of purity or simplicity like the images in Andy Warhol's work. Obviously processed and generated. 1997 Have we been deceived? Are we seeing reality? Do we feel the compelled by the reality of the things we see? When you look at the world, you feel the compelling reality lost in our everyday life. 2003 penetrate and echo in your consciousness. When you encounter true reality in a work of art, as long as it evokes something quintessential to human existence, it is a concrete representation or concept. This sophisticated feeling that we cannot express in words is what I call reality. I do believe that it is something that is lost in modern times and that it is one of our most important tasks to find it again. ZERO's work really reminds us of this.

1991 フィリップ・スティープ・ギャラリー、ニューヨーク
1994 コロス・ギャラリー、ニューヨーク
1995 愛宕山画廊、東京
1997 コロス・ギャラリー、ニューヨーク
1999 現代彫刻センター、東京
2003 ロバート・スティール・ギャラリー、ニューヨーク
2005 ロバート・スティール・ギャラリー、ニューヨーク
2007 galleryG G-SELECTION、広島
2008 Shonandai MY Gallery、六本木 東京
2010 ギャラリーTAO、広島
2010 コロス・ギャラリー、ニューヨーク
2014 いりや画廊、東京
2015 ギャラリーせいほう 銀座 東京



ワークショップ サンプル

Collections

1990 Edward Franklin Albee III New York "Compelling" in nature.
1994 College of Staten Island of The City University of New York an exception. Many
2000 OKAZAKI MINDSCAPE MUSEUM . JAPAN lineage of pop art, which is based on
2005 Grounds for Sculpture. NJ polished and slick yet ultimately
2006 The John and Mabel Ringling Museum of Art Sarasota, Florida
2011 Welding Technology Information Center of The Japan
2013 World Heritage Miyajima Misen Daisho-in superficial, and that his work will
Publications + press
1993 New York Times, 1994 US Asahi Shinbun. / The Yomiuri Amerika.
ART FOURUM. ART NEWS. GEIJUTSU SHINCHO.
2005 SCULPTURE. 2005 OKAZAKI CITY MUSEUM NEWS.
2006 EDWARD ALBEE STRETCHING MY MIND.
2013 THE WINDOW OF ARTS' Masuda (Director of Kure Municipal Museum of Art)

作家によるワークショップ

日時：10月15日(土曜日) 13:00~16:00

鑄造中に出来た、ブロンズの小片を構成して自由に芸術彫刻をつくる。制作内容は自由。(文鎮、メダル、壁掛けレリーフ、置物など etc)自分の好きな形の金属を選び、完成予想図をデッサン。それに基づき作家と一緒に溶接し作品を完成させる。※溶接は作家、もしくは助手が行う。

参加費 1500円
「デッサン用具持参 紙、鉛筆、クレヨン、絵の具 etc」
定員 15名程度

